

2015年9月にSDGsが合意されて以来、4年が経過した。2019年9月にはSDGsサミットが初めて国連総会のもとで開催され、それまでの普及段階から、いよいよ目標達成へ向けた「行動の10年」が始まることが確認された。

日本国内でもSDGsが急速に普及し、地方自治体やビジネス界でも頻繁に言及されるようになりつつある。国連における決定がここまで多様なステークホルダーに取り上げられた例は、これまでになかったと言って良い。SDGsには、これまでの国連によるイニシアティブとはどこか異なる点が含まれているようである。

2013年から2015年にかけて、オラン・ヤングやピーター・ハース、フランク・ピアマンといった国際政治学者の参加を得て行った国際研究プロジェクトでは、SDGsが行おうとするグローバル・ガバナンスを「目標ベースのガバナンス (governance through goals)」と規定した。法的枠組みやルール形成はグローバルレベルでは行わず、ただ15年後の達成を目指す目標の体系を提示するという新たなグローバル・ガバナンスのアプローチである。SDGsほど包括的に目標を提示し、かつターゲットまでを含めて具体的に目標を提示するのは初めてのことであり、従来国連が得意としてきた法的枠組みを基軸とした国際レジーム形成とは全く性格を異にしている。前述の国際研究プロジェクトでも、このアプローチは、グローバル・ガバナンスの新たな可能性を示すものであるとして、当時まだ見ぬSDGsによる目標ベースのガバナンスの理論的検討が行われた (Norichika Kanie and Frank Biermann, eds., *Governing through Goals: Sustainable Development Goals as Governance Innovation*, MIT Press, 2017)。

それから数年が経ち、目標ベースのガバナンスの実態や可能性が、少しずつ実証的に見え始めてきた。この段階で一旦立ち止まり、様々な観点からSDGsによる目標ベースのガバナンスを理論的及び実証的に検証することで、その可能性と役割を明らかにし、また、課題を明らかにしていくことが本特集の目的である。例えば以下のようなテーマの論文が考えられる。

1. SDGsが進めようとするグローバル・ガバナンスの理論化。グローバル・ガバナンス論や国際制度論の観点から見たときのSDGsの新規性や課題を明らかにする論文や、パワーポリティクスにおけるSDGsの論点、あるいは、国際レジーム論における位置づけや、目標ベースのガバナンス論の批判的考察など、理論的観点からの分析を行うもの。
2. SDGsの実施状況を実証的に分析することで、例えば特定の課題領域における行為主体の相互関係の変化の有無を論じるものや、そのダイナミクスを考察するもの。あるいは、多国籍企業や地方自治体のグローバル・ガバナンスにおける動態を実証的に分析するものや、多様な分野における問題解決のあり方の変化を論じるものなど、

実証研究をベースに **SDGs** を分析するもの。

3. 国際政治と国内政治の相互連関のあり方の変化や動態を論じるもの。とりわけ、グローバルでコンセンサスが形成された目標に対して、国別実施の自由度の高い **SDGs** のメカニズムが、国際政治と国内政治の相互連関の動態をどのように変えていっているか、あるいは変えないのかの、実証的な分析。
4. 国連や国連改革のあり方を論じるもの。特に **SDGs** が経済・社会・環境の諸問題を包括的に扱うなかで、それぞれの課題における国際レジームが、国連の中でいかに統合的あるいは分散的に扱われていくのかを分析するもの。
5. 持続可能な開発の国際政治上の位置づけや、持続可能な開発という課題と安全保障や国際経済問題の相互関係など、国際政治の動態の変化を論じるもの。

以上はあくまでテーマの例示であり、募集する論文はこれらのテーマに限られるものではない。**SDGs** は極めて幅広い分野を含む課題であることから、具体的なアプローチの方法はそれぞれの分野から行うことも可能であるし、**SDGs** を批判的に考察する論文も歓迎する。**SDGs** というものを一つの体系としてとらえ、その国際政治学的な分析を行う論文の投稿を期待したい。

*

執筆をご希望の会員は、論文の仮タイトルと要旨を 600～800 字程度にまとめ、2020 年 10 月 31 日（厳守）までに、下記の編集責任者のアドレスまでメールをお送りください。応募に当たっては、自宅と勤務先／所属先の住所、電話／FAX、メールアドレスをお知らせください。検討の上、執筆をお願いする方には、2020 年 11 月 30 日までに編集責任者から連絡いたします。原稿の最終提出締め切りは 2021 年 9 月 30 日を予定しています。論文の分量は注を含めて 2 万字以内です。査読の上、最終的な掲載の可否を決定いたします。本号の刊行予定は 2022 年 5 月です。執筆要領は、以下の学会ウェブサイトをご覧ください。
<http://jair.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/documents/shippitsuyoryo.pdf>

お問い合わせ、お申し込みは下記までお願いいたします。

<編集責任者> 蟹江憲史

<連絡先> 〒252-0882 神奈川県藤沢市遠藤 5322 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス

TEL & FAX : 0466-49-3452 (内線 : 53125)

e-mail : kanie★sfc.keio.ac.jp (★を@に置き換えてください)